



ツタマートツイグー  
芭蕉布 着物「一玉 小鳥」 昭和58年/芭蕉布織物工房  
ツバメをポイントに配し絵羽風に格調高い着物に仕上げた。



ツイグー  
芭蕉布 裂地「小鳥」  
平成/芭蕉布織物工房  
平良敏子が考案したツバメ柄。バーナード・リーチが「このツバメはまるで翔んでいるようだ」と感心した。



ウー アカジ アヤナカ  
煮総芭蕉布 琉装着物「赤地 綾中」  
平成/芭蕉布織物工房



ニーガシー  
煮総芭蕉布 琉装着物  
クワンジ ヒキリギー  
「紺地 トーニー 引下 ビーマー」  
平成19年/喜如嘉の芭蕉布保存会



芭蕉布 帯地「藍コーザー アササ」  
平成/芭蕉布織物工房



ハチジョーハチ ハナアーン  
芭蕉布 着物「八十八 クルーサー 花合」  
平成/芭蕉布織物工房

上記作品写真：◎つは写真館 比嘉厚

芭蕉布とは、亜熱帯を中心に分布する植物「糸芭蕉」の葉柄からとれる繊維を材料とした沖縄を代表する織物のことです。  
第二次世界大戦後に消滅しかけた芭蕉布を、<sup>おおきみせん きじよか</sup>大宜味村喜如嘉で、糸芭蕉の畑を自ら復活させ、工房を作り、現代へと繋いだのが人間国宝<sup>たいら としこ</sup>平良敏子でした。芭蕉布は、3年ほどかけて糸芭蕉を育てることからはじまります。収穫後の糸づくりから、染め、織りまで、膨大な時間をかけ、30近い工程を経て完成します。この貴重な芭蕉布は、喜如嘉の女性たちの努力と熱い志によって、今も大切に受け継がれています。本展では、民藝運動の主唱者・柳宗悦に「今時こんな美しい布はめつたにないのです。いつ見てもこの布ばかりは本物です。」と言わしめた芭蕉布の着物、帯地、裂地や資料など約70点にわたり展覧いたします。糸が織りなす透けるような風合い、古くから伝わる琉球藍や車輪梅の力強い色彩、バラエティに富んだ柄柄の世界など、沖縄の伝統文化である美しい手仕事の魅力を存分にお楽しみください。



ドンビー  
平良敏子と友部 1970年代

【平良敏子 略歴】

- 1921年(大正10年) 沖縄県国頭郡大宜味村喜如嘉に生まれる
- 1946年(昭和21年) 岡山県倉敷市にて外村吉之介に師事
- 1963年(昭和38年) 喜如嘉に本格的な芭蕉布織物工房を開く
- 1972年(昭和47年) 県指定無形文化財 芭蕉布の保持者に認定
- 1974年(昭和49年) 「喜如嘉の芭蕉布保存会」の代表となる
- 「喜如嘉の芭蕉布」が重要無形文化財に指定
- 2000年(平成12年) 重要無形文化財保持者(人間国宝)に認定
- 2021年(令和3年) 百寿を迎え、なおも芭蕉布の制作や後継者の育成に努める
- 2022年(令和4年) 9月13日、逝去

モーニング・ミュージアム

故・平良敏子さんの後継者であり、喜如嘉の芭蕉布保存会会長でもある平良美恵子さんによるギャラリートーク。会場内を移動しながら、展示作品の解説をします。

開催日時=2023年9月10日(日) 9:15-9:50(受付 9:00)  
会場=美術館「えき」KYOTO  
参加料金=お一人さま1,500円(入館券付き/税込) 定員=25名  
参加券販売=2023年8月5日(土)よりローソンチケットにて販売。  
定員になり次第、販売終了。

京都新聞ニュースカフェ 特別講演会「喜如嘉の芭蕉布」

講演=平良美恵子(芭蕉布織物工房)  
当日は三線奏者による演奏もお楽しみいただけます。

開催日時=2023年10月4日(水) 13:30-15:00(受付 13:00)  
会場=京都新聞文化ホール(京都市中京区烏丸通夷川上ル京都新聞ビル7階)  
参加料金=お一人さま1,500円(税込)  
定員=先着150名(参加券を送付)

※詳細、お申し込みは、2023年8月21日(月)から右記二次元コードにて受付開始。



お問合せ 京都新聞COM開発推進部  
TEL 075(255)9757(平日9:00-17:00)



ウー  
芋炊きの様子

ウー  
芋干し(乾燥)

©喜如嘉芭蕉布事業協同組合

※展示作品やイベント内容が変更、または中止になる場合がございます。予めご了承ください。最新情報は当館ホームページをご覧ください。



美術館「えき」  
KYOTO

お問合せ ジェイアール京都伊勢丹 TEL.075(352)1111(大代表)  
美術館えき 検索 公式Twitter @ekimuseum

